

様式2 **令和2年度 清瀬市立清瀬第十小学校 学校評価計画**

学校教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
・豊かに感じ、よく考える子ども ・友達の良さがわかり、助け合う子ども ・心身をきたえ、明るく生きていく	・育成を目指す資質や能力を「他者とのかかわりを通して自己を見つめ、よりよい社会を形成していく力」とした。それに伴い指導の最重要項目を「確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践を重視した教育活動を行う。」とした。感染防止対策を進めながら、主体的・対話的で深い学びとなるよう、教員が学習内容や方法を工夫して展開する必要がある。そこで校内研究及び教員同士の相互授業参観を通して全教員の指導力向上を図る。 ・5.6学年は外国語、3.4学年は外国語活動、1.2学年でも朝学習の時間に英語遊びを取り入れるなど指導の充実を図る。また体験や活動を通して伝統文化の良さを理解させることも継続して特色ある教育活動として取り組む。
目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】①児童にとって明るく楽しく安心できる学校 ②教職員にとって明るく楽しく指導が行える学校 ③保護者や地域から信頼される学校	
【目指す児童・生徒像】人として大切なこと、将来、社会に出た時の基本を身に付けている児童	

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 取組指標、成果指標それぞれが「4」と一番高かった項目は、豊かな心の育成として定めた「アセスやアンケートによるいじめの未然防止」であった。学校関係者評価も「4」と高くなっており、安全・安心な学校として教育活動が展開されている。
課題 取組指標が「3」、成果指標が「3」学校関係者評価「3」と一番低かった項目は、豊かな心の育成として定めた「すすんであいさつ」であった。児童は、あいさつ週間などでは、あいさつするが、児童自らあいさつするという意識が低く、日々の生活の中で自主的にあいさつさせることが課題である。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	週の指導計画に学習のねらいや活動を記入し、授業ではめあてや流れも明示することで分かりやすい授業を行う。	4	4	課題 授業の中で児童同士が伝え合いながら、さらなる学びを深めていくこと。 対策 研究発表参観やOJT研修を通して他校など様々な実践を学ぶ。	年度当初は授業が駆け足で進んでいる印象を受けたが、臨時休校で失われた時数を戻すためには仕方のないことである。
	教員相互で授業参観の機会を作り、事後に協議を行わせて授業改善を図る。	3	4	課題 1単位時間すべてを見る授業参観は難しかった。 対策 中・高学年の教員が6校時に研究授業を設定することで低学年の教員が1単位時間すべてを見ることができる授業参観を設定する。	教員同士で学び合いながら授業を展開していただきたい 教員同士の学び合いを保障するため、オンラインを活用した校内研究授業を今後も行っていく。
豊かな心の育成	来校者や教職員、地域の人すすんであいさつできるようあいさつ運動を取り入れて指導する。	3	3	課題 教職員や地域の方々への挨拶ができていない。 対策 あいさつ運動の頻度を上げるだけでなく、質の向上に目を向けるような挨拶運動や指導を展開する。	朝のパトロールで挨拶をしない児童も見かけるが、校内では何度も挨拶をしてくれる児童も見受けられる。教員が挨拶の模範を示していくことを期待する。
	アンケート調査を定期的実施する。いじめがあった際は、いじめ防止対策委員会等で適切に対応する。	4	4	課題 いじめを0にすることができなかったが早期解決することができた。 対策 触れ合い月間アンケート6・11・2月、児童の振り返りアンケート7・12・3月に実施したり、いじめ防止対策委員会を開いたりして、対応策を考え実行していく。	朝の挨拶の模範を示していくことを期待する。 引き続きいじめ防止に関する政策をお願いしたい。
健やかな体の育成	なわとびの出前授業の実施、学習カードの活用、教員の実技研修を行うことで指導の工夫改善を図る。	4	2	課題 教員の実技研修が実施できなかったが、縄跳び教室で外部講師を招聘し、指導方法を学ぶことができた。 対策 縄跳び教室で外部講師を招聘し、さらには縄跳び旬間を運動させ設定することで指導の工夫改善を図る。	コロナ禍の影響を受け、体力低下につながらないように努力していただきたい。
	「早寝・早起き・朝ごはん」の実践を様々な機会に働きかける。	3	4	課題 うがい・手洗いの意識が高かったが、早寝・早起きの意識が高まっていない。 対策 保健便りで早寝・早起き・うがい・手洗いの大切さ、給食便りで朝ごはんを食べる大切さを啓発していき、学級指導も合わせて行う。	感染者が出ていないことに安心している。 家庭との連携は必要不可欠であり、今後も協力体制を構築していくために学校便りや保健便りを発信していく。
特別支援教育の充実	学年ごとの支援委員会を定期的開催し、日々の学年会を活用しながら児童の実態や指導方法を共有し、実践の振り返りを行う。	4	3	課題 対人支援を必要とする児童の人数をさらに減少させる。 対策 支援委員会や学年会で都度情報共有を行うだけでなく、実践の振り返りにも力をいれ、成果があがった施策を共有する。	児童の困り感が少しでも減少していることは喜ばしい。
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。	3	1	課題 学習支援を必要とする児童のニーズを的確に捉え、その人数を増加させない。 対策 個別指導計画にもとづいてユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を積極的に行う。	一概に数値だけでなく、個々の児童に目を向け、困り感が継続しないように注意していただきたい。 またきらりでの丁寧な指導が保護者に安心感を与えている。
本校の特色	蚕学習や石田波郷俳句作りへの参加、郷土カルタや百人一首の活用を充実させる。	3	3	課題 児童の満足度が85%と高いが、高学年児童の満足度が低・中学年と比べると低かった。 対策 石田波郷俳句大会に投稿することと運動させた授業改善を図り、児童の意欲を高めることで満足度を高める。	コロナ禍の制限の中で最大限の努力をしている。 命を大切に考え、郷土に根付いている蚕学習を引き続き行っていく。
	研修に参加してTerra Talk(AI)の活用など教材開発を充実させ、授業力を向上させる。	3	3	課題 コロナの影響を受け研修に参加できず、また民間会社のサポート体制も弱まりTerra Talk(AI)の性能が落ちていた。 対策 外国語の授業における成果はある程度得たので、Terra Talk(AI)との契約を白紙にもとし、特色の柱を変更する。	コロナ禍の状況にあっても継続して取り組める教育活動を展開していただきたい。 ICTを活用しながら、協働問題解決能力を育む教育活動を柱に据えていく。